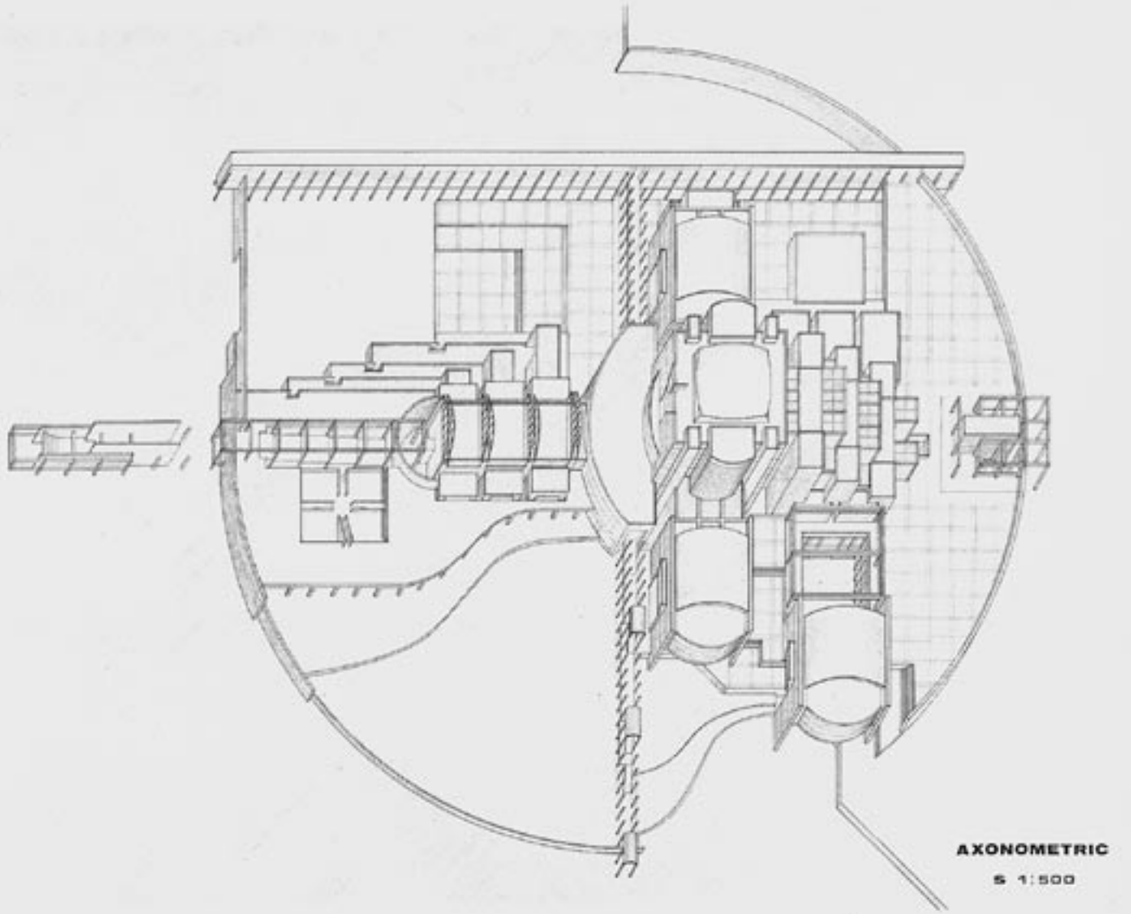
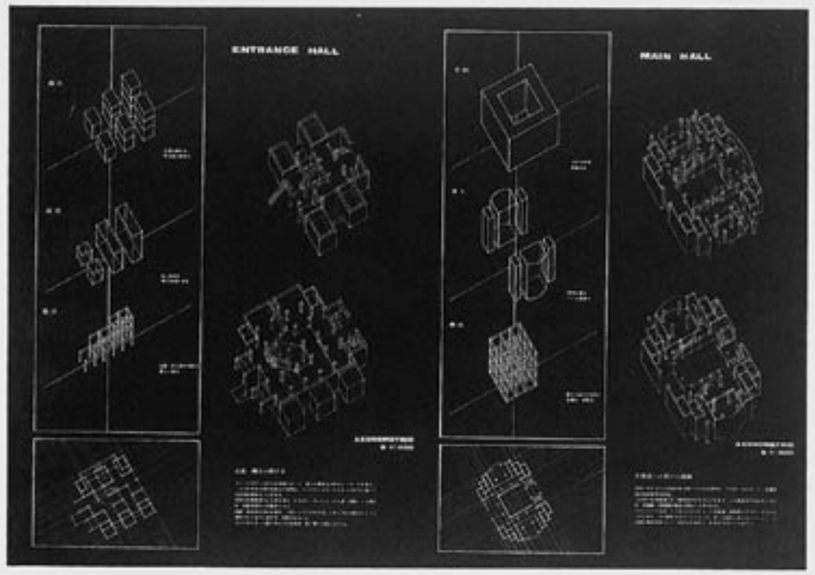
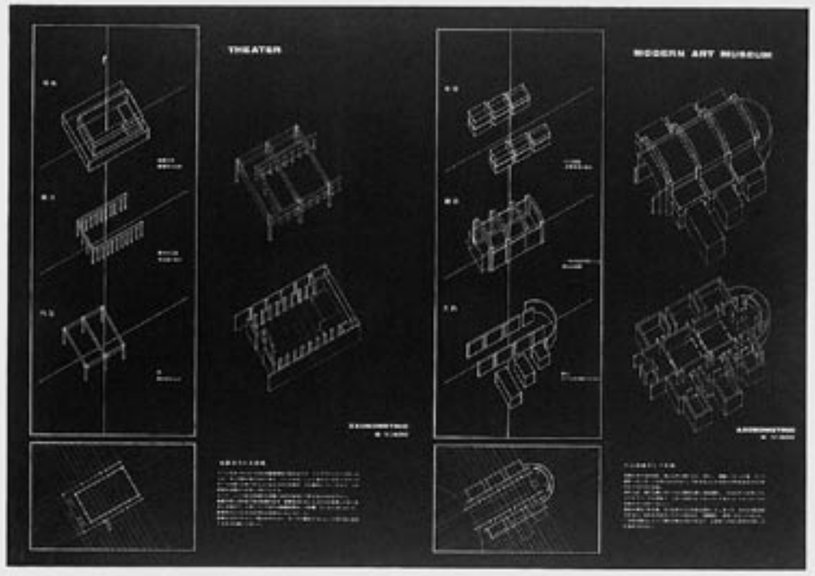
HUMAN RENASCENCE

—1926-1989—

向後 慶太







■設計主旨

「昭和」が終わり、一年が過ぎた。

マスコミをはじめ、我々の意識は「昭和」を過去の遺物として形成され始めている。

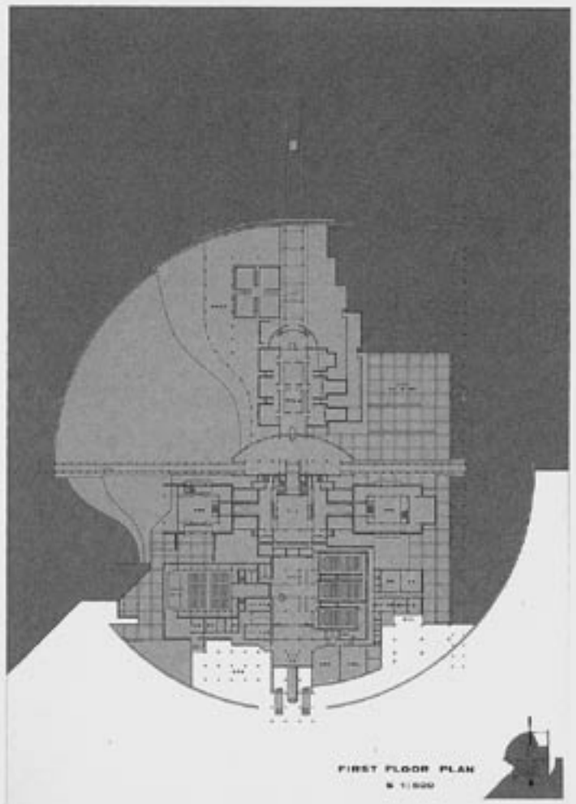
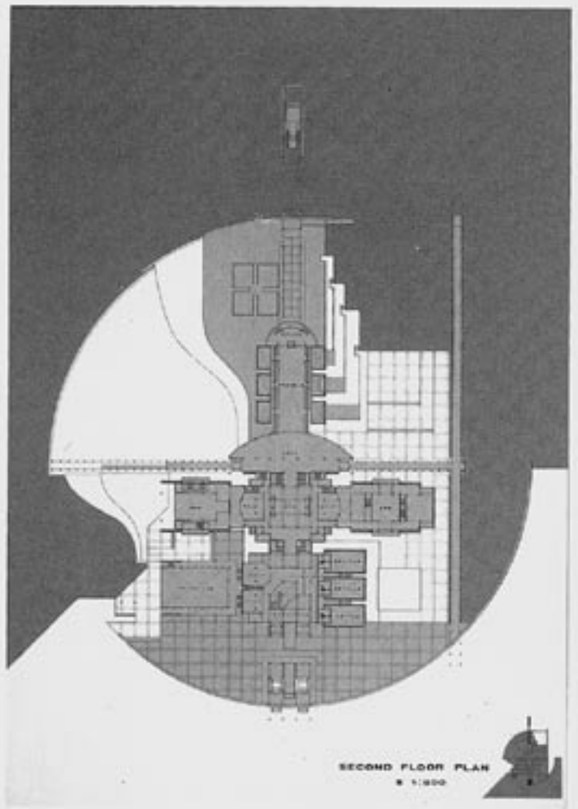
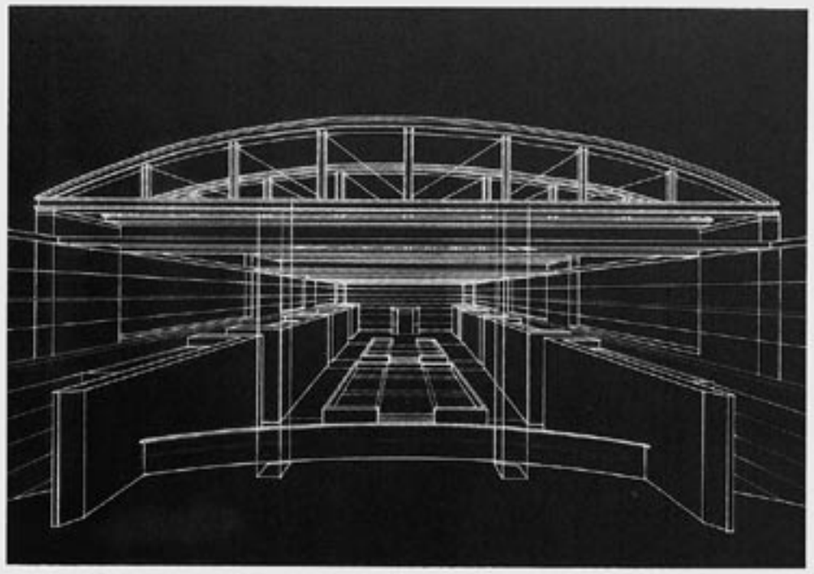
しかし、現代から未来への事象は決して偶発的なもののみによるのではなく、過去の事実の上に形成していく。

この施設は「昭和」を単なる記念碑の対象として捉えるのではなく、今後の積極的昇華手段の手がかりとして認識させようというものである。

劇場、資料館によって「昭和」に対する現在までの主観的、客観的評価を意識化するとともに、その断片化を促し、その断片化された意識は博物館、美術館等を手がかりに個人の主観によって再認識され、現代芸術館をはじめとした諸施設によって再統合が行われる。

これらの施設は、それぞれより具体的コンセプトを持って提示される。

ここで形成された「昭和」は個人の主観性に立脚し、その個人の意識となる。

単なる記念碑ではなく、また状況の復興(RENAISSANCE)でもなく、昇華の可能性を秘めた復活(RENASCENCE)であってほしい。

未来は決して一方向に向かっているわけではない。